務事業評価表

記入年月日

平成16年4月20日

平成16年度	事業コード	15110	電話	042-754-3604			
担当部課名	生涯学習部 ▼	図書館	_	奉仕	係 ▼		
事務事業名	図書館サービス経費						
予算上の事務事業名	図書館サービス経費						

1 総合計画における位置づけ

政策名	▼第	5	章	いきいきとした生涯学習社会をつくります	事業開始年度
基本施策名	第	1	節	生涯学習の推進	63以前 ▼ 年度
施策名	第	1	施策	生涯学習の推進充実	63以前 ▼ 年度

2 実施根拠及び関連法令等

図書館法第3条

3 事務の区分 4 経費の区分 5 事務事業の分類 市単独事業 法定受託事務 その他の経費 •

6 受益者負担

なし

7 事業概要

(1)事業の目的何をどのように(どのような状態に)したいのか	(2)対象(誰、何)	
図書館における児童サービスの一環として、幼児期から本に親しみ、読書習慣を育成	幼児、または児童と	その
すること及び保護者や読み聞かせボランティア等に、本の選書や読み聞かせ方の実技	保護者、もしくは読み	·聞か
	せボランティア等	
合わせて、児童書の読書推進及び図書館利用者の増大と定着を図ることも目的とする。	対象数	単位
	1.10	1

(3)平成15年度事業の内容…市が実際に行った事業の内容

児童文学講座「絵本の選び方、読み聞かせ方」

内 容 対象年齢に合わせた、絵本・物語の選び方や与え方、読み聞かせ方 対 象 1回目 保護者等 2回目 読み聞かせボランティア及びボランティア希望者

1回目 保護者等 2回目 読み聞かせボランティア及びボランティア希望者 1回目 平成15年10月28日、31日 2回目 平成16年3月12日、19日

(4)個別計	画の	概要		概要		
計画名	な	U	な	•	し	
計画年次		年度~	年度			

8 評価指標…事業の目的達成度を計るための指標

16.17年度は目標値

- 1111111111111111111111111111111111111								
	指標名	指標式・指標の単位	指標設定の意図	扌	旨標の	推移(年度))
	児童書回転数	児童書貸出÷児童書蔵書数 冊数	児童書の蔵書の貸出状況によ り利用実態をみる	1 3	1 4	1 5	1 6	1 7
成果指標	(回)	110.54	り利用夫感をのる	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1
活動指標	講座出席比率 (%)	講座出席者数 ÷ 講座定員数 * 100	講座出席率から、応募者の講 座内容に関する充実度をみる	66	72	97	98	98

9 事業費等の年度別状況

ι	金額甲位	: ¬	۲H	J

	1 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7					(<u> </u>
		平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
		決 算	決 算	決算 (見込み)	予算	予算 (見込み)
事	決算(予算)額	120	120	107	107	107
	人員・時間数	2人・11日	4人・15日	3人・16日	4人・11日	4人・9日
業	人件費	114	109	87	74	67
	その他経費					
費	合 計	234	229	194	181	174
1	持 定 財 源					
対	象数(人)	570	144	140	160	160
単	立あたり経費(円)	410.5	1,590.3	1,385.7	1,131.3	1,087.5

(1) 連成版	10 個別評価(担当課による一次評価)							
# 1	(1)達成度	A:達成している		・成果指標の達成度 🔽 高 🔲 中 🔲 低				
事業目標の遺成度	評 価	B:一部達成していない		・活動指標の達成度 🔽 高 🔲 中 🔲 低				
現明 児童音の貸出冊数の増加やおはなし会への参加状況から、講座実施による一定の成果が上がつている マ・市民や社会のニーズにかなっている マ・対別の変化(対象や内容)に対応している マ・対別の変化(対象や内容)に対応している マ・対別の変化(対象や内容)に対応している マ・対別段定した事業目的が達成されていない マ・当別段定した事業目的が達成されていない マ・当別段定した事業目的が達成されていない マ・当別段定した事業目的が達成されていない マ・当別段定した事業目的が変成されていない マ・当別段をした事業目的が変成されていない マ・当のである チェック頂 アともの議論・表面を地域等で推進することが求められている中で、図書館としても程格的に支援している要がある。また子どもの議書に関する市民ニーズは、またに高いと言える。 マ・上のの施集・計画目的達成のために有効である アともの議書は関係のために有効である アともの議書は関係のために有効である アとの議書は関係のために有効である アとの議書は関係の表がの、今では、公民館等で子とも読書に関する市民ニーズは、また、家庭や学校等における読書環境展成に寄与する事業である。 ・一地の類似事例と比べてコストや効率性が優れている で・一部一とは「ロールの類似事例と比べてコストや効率性が優れている で・一部一とは「ロールの類似事例と比べてコストや効率性が優れている で・一つ、対象者と対して同様のサービスの推進していない 本議座の専門対効果は適当であるが、今後は、公民館等マ子とも読書に関わる活動を行っているが、ア・対象者と対しているとうの連携を検索する必要もあると考えられる。 ・対象者とお対象にしている ・対象者とお対象としている。また保護者に限定せず、読み関かせがカラティアグルーブライン・加入ファイアが出る対象としている。また保護者に限定せず、読み関かせがカラティアグルーブライン・本語の対策を表しているよう意味の関係を表しているとの表が表に対象との方策 で・一方で表しているよう意味の関係を表しているとの表が表に対象を多っ実施による 1 総合評価・担当課による一次評価 東西の対策を表に表しているとの表に対象を多っ実施による 東西の対策を表に表しているとの表に対象を多っ実施による 東西の特別を全のである。また、工作財権定よる。 で・一部で表に表しているとの表に対象を表しているとの表に対象を表しましまりを表を可能が表しているとの意味を表しているとの記述を対象とに対象を表しましましましましましましましましましましましましましましましましましましま	A ▼	C:達成していない						
# (説明					
# 個	(2)必要性	A:適応している		▼ ・市民や社会のニーズにかなっている				
▼ 図 図 図 図 図 図 図 図 図		B:一部適応していない	チェック	☑ ・状況の変化(対象や内容)に対応している				
(3) 有効性 A: 有効である また 子ェック項	評 価	C :適応していない	項目	☑ ・当初設定した事業目的が達成されていない				
説明 記述	A ▼							
計価			説明	ても積極的に支援していく必要がある。また子どもの読書に関する市民ニーズは、				
(4) 効率性	1 ' '	A:有効である		▼ ・上位の施策、計画目的達成のために有効である				
(4) 効率性 A:優れている 8:一部改革の余地がある 項目	評価	B:一部有効でない	Ħ					
# 個	A ▼	C:有効ではない	・説明					
評価	(4)効率性	A:優れている		▼ ・予算や人員に見合った効果が得られている				
B ▼		B:一部改善の余地がある	チェック	□ ・他市と比べてコストや効率性が優れている				
**・	評価	C:改善の余地がある	項目	□ ・他の類似事例と比べてコストや効率性が優れている				
お明	В							
# 価	' '		説明	本講座の費用対効果は適当であるが、今後は、公民館等で子ども読書に関わる活動を行っているグループ等との連携を模索する必要もあると考えられる。				
日	(5)公平性	A:公平である	イー・・・カエラ					
A	評 価	B:一部公平でない		□・受益者の費用負担は適正である				
 説明 ボランティアやボランティア希望者も対象としている。図書館法第17条(無料の原則)を堅持したい。図書館法第17条(無料の原則)を堅持したい。図書館法第17条(無料の原則)を堅持したい。図書館法第17条(無料の原則)を堅持したい。図書館法第17条(無料の原則)を図書でしていること 子ども読書活動を支援しているNPOや実践的活動を行っているボランティアグループの養成・育成を視野にいれた。	A ▼	C:公平でない						
(6) 成果の向上及び費用対効果を高めるための方策			説明	ボランティアやボランティア希望者も対象としている。				
でいるボランティアグループ等が、本講座運営へ参画する ことにより内容等の充実を期待できる。 協働で担いうるボランティアグループの養成・育成を視野にいれた 講座の実施も検討すべきである。また、工作教室等の実施による 利用者の増大、定着を図ることや講演会の開催により、図書館活動への理解、協力を求めていく努力も必要と言える。 11 総合評価(担当課による一次評価) 本本				めの方策 (7)今後の課題となっていること				
AA ▼	ているボラン	子ども読書活動を支援しているNPOや実践的活動を行っ 他市で実施しているような読み聞かせやおはなし会等を図書館とているボランティアグループ等が、本講座運営へ参画する 協働で担いうるボランティアグループの養成・育成を視野にいれたことにより内容等の充実を期待できる。 講座の実施も検討すべきである。また、工作教室等の実施による利用者の増大、定着を図ることや講演会の開催により、図書館活						
□ AA ▼ 県内及び近隣の同規模、特色ある講座を実施している図書館を対象に調査を行ったが、 実施内容や回数、予算等は適当であった。 今後の進め方 一	11 総合評(西(担当課による一) 		↑ 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1				
 経 続 総合評価に関する説明 見 直 し 職員定数の増員により、図書館サービスのあり方や運営体制等の検討についても現在検討をすすめている。 図書館の利用率を増加させるためには、幼い時から図書館を利用する習慣を身につけさせることが必要不可欠であり、そのためには、幼児期における絵本等の読み聞かせ等はたいへん重要な意味をもっているといえる。 このことからも、本事業については今後とも図書館サービスの充実な一環として、更に事業内容や規模等を検討していく予定である。 	評 価	AA ▼	県内及び	近隣の同規模、特色ある講座を実施している図書館を対象に調査を行ったが、				
□ 見直 U 職員定数の増員により、図書館サービスのあり方や運営体制等の検討についても現在検討をすすめている。 図書館の利用率を増加させるためには、幼い時から図書館を利用する習慣を 身につけさせることが必要不可欠であり、そのためには、幼児期における絵本等の読み聞かせ 等はたいへん重要な意味をもっているといえる。 このことからも、本事業については今後とも図書館サービスの充実な一環として、更に事業内容や規模等を検討していく予定である。	今後							
□ 見直し 職員定数の増員により、図書館サービスのあり方や運営体制等の検討についても現在検討をすすめている。 図書館の利用率を増加させるためには、幼い時から図書館を利用する習慣を身につけさせることが必要不可欠であり、そのためには、幼児期における絵本等の読み聞かせ等はたいへん重要な意味をもっているといえる。 このことからも、本事業については今後とも図書館サービスの充実な一環として、更に事業内容や規模等を検討していく予定である。	~	継続	総合評価は	- 関する説明				
等はたいへん重要な意味をもっているといえる。 このことからも、本事業については今後とも図書館サービスの充実な一環として、更に事業内容や規模等を検討していく予定である。		見直し	職員定数 すすめてい	「の増員により、図書館サービスのあり方や運営体制等の検討についても現在検討で Nる。 図書館の利用率を増加させるためには、幼い時から図書館を利用する習慣を				
完了(廃止)済 書館サービスの充実な一環として、更に事業内容や規模等を検討していく予定である。		完了·廃止						
12 二次評価コメント(行政評価会議による二次評価)		建館サービスの充宝か一環として、更に重業内容や相模等を検討していく予定である						
	12 二次評(12 二次評価コメント(行政評価会議による二次評価)						